

漂着ごみの多さに驚き

白糠高生、探究学習で海岸調査

【白糠】白糠高校（田村 信明校長）の1年生26人は、21日、総合的な探究の時間の一環でパシクル沼巡検と海岸漂着ごみ調査を行った。2020年度から実施している海洋ごみ（漂着ごみ）調査の3回目。調査を前に17日には公営塾「久遠塾」のスタッフを講師にパ



漂着したごみを拾い集める生徒ら（白糠町役場提供）

いった種類のごみが多いかなどについて調べた。小林翔輝さんは「最初にごみの多さに驚いた。海洋汚染から海の水質などが問題になる中、ごみの量は改善しなければならぬと思った。海や川はもちろんポイ捨てなどは絶対してはいけないと改めて感じた」と話していた。（森崎博史）